

障害者スポーツを通じた交流及び共同学習と本校のセンター的機能

支援部主任 藤谷 淳一

本校中学部では、「平成30年度 学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業（文部科学省委嘱事業）」を受けて、横手市立横手北中学校とのスポーツ交流を予定しています。

本事業は、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催を契機として、障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に障害者スポーツ（ボッチャ、ブラインドサッカー、車いす卓球等）を行う、一緒に障害者アスリート等の体験を聞くなどの、障害者スポーツを通じた交流及び共同学習となります。

7月13日には、両校の代表生徒による事前交流会を行いました。手作りの名刺交換から始まり、障害者スポーツ（ボッチャ）を混合チームで体験しました。その中で、お互いに楽しく気軽に、誰もが取り組めるようなルールを検討するなど、8月30日の本番につながるような学習活動を行うことができました。

また、交流会に向け本校のセンター的機能の一つである「障害理解のための出前授業」を行いました。“障害とは何？”といったステレオタイプの理解ではなく、様々な体験（車いす、分からないこと等）を通して、お互いに楽しく過ごすためのコツやポイントについて考える時間としました。障害をもつ方に「どう接していいか不安」「かわいそう」「何だか怖い」などといった、子どもたちが相手のことを理解しようとする過程の中で生じる感情も大切にしながら、仲良くなるための5つの提案を、次のように行いました。



こんな場面を見たら・・・

- ・くるくる回ったり
- ・ジャンプしたり
- ・大きな声を出したり
- ・独り言を言ったり
- ・しらんぷりしたり

【想像してみましょう】

- ・どうしたのかな？
- ・たのしいのかな？
- ・いやなのかな？
- ・わからないのかな？

変な人だなあ
なんだか怖い
なあ



- ①共通点を見つけて、話しかけてみましょう。
- ②笑顔を見つけて、一緒に笑ってみましょう。
- ③相手の気持ちを想像してみましょう。
- ④一人でできるように、手伝ってあげましょう。
- ⑤支援学校の先生にどうしたらいいか聞いてみましょう。

仲良くなるコツの一つにも上げましたが、「どうしてかな？」と、相手の気持ちを想像してみることが支援の最初の一步になると考えます。出前授業の最後に、「はじめよりも、不安が小さくなった人は手を挙げてください。」と質問しました。その際に、本当は不安だけれども、私たちの思いをくみ取って、全員が手を挙げてくれました。そんな横手北中学校のみなさんは、きっと本校の生徒たちの気持ちも想像できるやさしい人たちなのだと思います。

交流校以外でも「障害理解の出前授業」の要望があれば、ぜひご連絡ください。

ほっとサポートのご案内

1 目的

小・中学校の特別支援学級の担任の先生方、小・中・高等学校の特別支援教育コーディネーターの先生方を対象とした「ほっとサポート」を行っています。障害の理解や対応の仕方、日々の授業づくりや指導案の検討、個別の指導計画の立て方など、日々「これってどうなんだろう？」と感じられていることを一緒に考える機会にしたいと考えます。

2 日時・場所

電話又はFAX等でご連絡ください。日時を調整した上で学校を訪問させていただくか、本校に来校いただき指導に関する相談や、体験・実践的な研修を行います。なお、次の日時は、本校での相談日として設定しておりますので、ご活用ください。

日にち	8月21日(火)	1月9日(水)	1月10日(木)
時間	9:00 ~ 17:00		

3 内容（サポート例）

* 電話やメール等での相談受付や支援のフォローアップも行います。



教育相談及びほっとサポート等の問い合わせ先

県立横手支援学校 (小・中学部) 教頭 近田 浩治 TEL: 0182-33-4166
FAX: 0182-33-4266
(高等部) 教頭 松井 克彦 TEL: 0182-33-4167
FAX: 0182-33-4277